

5 年	単 元 名	Lesson6 Where do you want to go? 行ってみたい都道府県を伝えよう
(教科)外国語		

1. 単元の目標

行ってみたい場所やその理由の伝え方・尋ね方を知って、言うことができる(知識・技能)
 行ってみたい場所を伝える表現をなぞり書きすることができる(知識・技能)
 行ってみたい場所を考えて伝えたり、尋ねたりすることができる(思考力・判断力・表現力)
 相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする(学びに向かう力、人間性等)

2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- ・各地への興味関心を深めるために図書資料を活用する。
- ・調べる視点を絞り、目的をもって図書資料から情報を探ることができる。

3. 児童について(略)

4. 単元指導計画(8時間)

時	内容
1	行ってみたい都道府県とその理由について、まとまった話を聞いて具体的な情報を聞き取る <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と担任の都道府県紹介の話を聞いて、本単元の表現を知る。 ・本単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。
2	行ってみたい都道府県とその理由の尋ね方・答え方がわかり、気持ちを伝える表現を知る <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県クイズの見本を通して、理由の尋ね方・答え方・気持ちを伝える表現を知る。 ・ALT や友だちとのやりとりを通して表現を使ってみる。
3	行ってみたい都道府県とその理由の尋ね方・答え方がわかり、言うことができる <ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい都道府県を尋ね合うことで、表現に慣れ親しむ。 ・名物マップから行ってみたい都道府県を選ぶ。
4	行ってみたい都道府県についてしてみたいこと、できることを調べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい都道府県の情報を図書資料から探す
5 (本時)	都道府県クイズを通して、行ってみたい場所とその理由の言い方に慣れ、発表の準備する <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料から探し出した都道府県の情報から伝えたいことを考える ・自分の伝えたいことを英語表現で表す
6	行ってみたい場所を伝える表現をなぞり書きすることができる。発表に向けた準備をする <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って、なぞり書きをしながら書き方を知る。 ・書いたワークシートを使って発表に向けた練習をする。
7	行ってみたい場所について、相手に配慮した話し方や聞き方を工夫しながら伝え合う <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように話し方を工夫(テンポ、強弱、ジェスチャーなど)しながら練習をする ・5年生同士で都道府県クイズを出題し合う。
8	行ってみたい場所について相手に配慮して都道府県クイズを出題する <ul style="list-style-type: none"> ・6年生へ都道府県クイズを出題する。

5. 本時の授業の流れ

ねらい 行ってみたい都道府県について集めた情報をもとに、行ってみたい場所と理由を明確にして都道府県クイズを考えることができる。

学習活動	教師の手立て	ALT
<p>Warming up</p> <p>1. あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直とALTが他児童に日付等を聞くやりとりをする <p>2. Small Talk 「Where do you want to go?」</p> <p style="padding-left: 40px;">「I want to go to～.」</p> <p>HRT&ALT デモンストレーション(都道府県クイズ)</p> <p>Main Activity</p> <p>3. めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>調べたことをもとに、英語表現を使って都道府県クイズを作ろう</p> </div> <p>4. 都道府県クイズを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズで使える表現を確認する したいこと「I want to～」 できること「I can ～」 見る「see」 食べる「eat」 行く「go to」など ・情報カードから伝えたい内容を英語表現で表す I want to see the lavender fields. It's beautiful. I can eat lavender ice cream. <p>5. できたクイズをグループで伝え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで練習 ・中間振り返り ・グループ発表 <p>6. ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のふりかえりを行う 	<p>・日直が質問したことを児童と一緒に答える</p> <p>・Small Talk のテーマについて伝え、やりとりを確認する</p> <p> テーマ:都道府県クイズ</p> <p> ALT→児童の順でやってもらう 児童の出題する都道府県はランダムに選択したもの。</p> <p> 既習表現が使えるように確認する</p> <p>・本時のめあてを確認し、クイズ作りの意欲を高める</p> <p>・既習表現をデモンストレーションから確認し、クイズ作りの参考にできるようにする。</p> <p>・情報カードから伝えたいことを選び出すことを伝える。</p> <p>・単語を並べ替えて文章が作れるようにワークシートを準備する</p> <p>・ペアで伝え合った後に中間振り返りを行い、表現の確認をする</p> <p>・本時の学習のふりかえりを行い次回の意欲を高める</p>	<p>・日直と一緒にあいさつ、日付を聞くやりとりをする</p> <p>・都道府県クイズを出題する</p> <p>・児童が出題する場合、児童が困った時に支援する</p> <p>・既習事項を発音する</p> <p>・児童の発音を確認する</p> <p>・英語表現に困っている児童の支援をする</p> <p>・児童のやりとりを聞きながら困っている児童の支援をする</p>

6. 考察 (成果や課題等)

①相手意識、目的意識について

単元を通して、6年生に自分の行ってみたい都道府県を紹介するという相手意識、目的意識を授業の最初に確認した。そのため、クイズを出題する時に、6年生にも行ってみたいと思ってもらえるような伝え方を工夫を考えることができた。また、クイズ形式にしたことで、児童が楽しみながら主体的に取り組むことができた。

しかし、本来は自分の行きたい場所を6年生に紹介する目的であったが、中には、6年生が行きたくなるには、これがいいなあと選んだものもあったように感じた。また、クイズにすることを強く意識した児童は、自分のしたいことよりも6年生が知らない情報を選んでいった。これらは、児童の相手意識が高まった結果でもあるが、自分の行きたい場所、したいことを紹介するという目的が浸透していなかったためだと考えられる。相手意識があることで、児童は主体的に学び向かうことができるので、児童の思考に沿った相手と目的を考えることが重要であると感じた。

②図書館活用・調べ学習について

今回のゴールのためには、まず児童自身が「この都道府県に行ってみよう」と思うことが重要であった。そこで、学校司書の協力のもと様々なガイドブックを資料提供してもらった。児童が興味をもち、自由に閲覧できるよう、事前に教室に資料を配置した。児童の実態として、各都道府県の特産品や有名なものをよく知らない児童が多かったため、写真がたくさんついているガイドブックは児童の興味を引くためには最適であったと考える。また、教室に資料があることで、クイズを作る時に、追加したい情報をすぐに調べたり、情報を確認したりと、児童が主体的に図書資料に関わる姿を見ることができた。

自分の行ってみたい都道府県について調べる際に、次の活動で英語表現にして伝えることができるように、情報カードに「見る see」「行く go to」「食べる eat」「買う buy」の絵シールをはった。このことで、情報カードを見ながら児童は自分のしたいことを英語で話すことができていた。

しかし、「見る see」のシールをはった情報カードに複数の見る物を書いてしまったため、次の時間に情報を選び、整理する時にわかりにくくなってしまった児童がいた。やはり、情報カードには1つの情報だけを書くという約束をしっかりと確認して調べ学習に取り組むべきだった。また、調べ学習の時点で、ある程度の情報の取捨選択を行い、紹介したいことを絞ることも必要に感じた。

③考察

今回、図書資料でガイドブックを使用した。ガイドブックはある程度情報が限定され、まとめているので児童が調べる時に調べやすかった。インターネットですぐに調べられる現代において、膨大な情報から必要な情報を見つけ、選び、判断することは大変である。そのため、まずはしっかりと監修された図書資料を使い、情報を見つけ、選び、判断するスキルを身につけることはとても有効な手立てだと考える。そのためにも、児童がすぐに図書資料に手を伸ばすことができる学習環境の整備も大切である。また、図書資料により児童の興味関心が高まり、必要感があれば、自主的に調べる姿がみられるので、目的意識はしっかりと意識したいと考える。